下町ボブスレーに今後も期待!!

新聞委員会

皆さん、冬のスポーツ競技というと何を思い浮かべますか？　おそらく、フィギュア・スケートやスピードスケート、スキージャンプ、アイスホッケーやカーリング等といった競技ではないでしょうか？実はソチ五輪に向けて、つい最近までボブスレーという競技に全国から東京都大田区に熱い視線が注がれていたのです。その理由は大田区内の約40社の町工場が約2年前にプロジェクトを立ち上げ、東京大学大学院教授などの協力を得ながら、「氷上のF1」と呼ばれる競技であるボブスレーの専用ソリ（下町ボブスレー）の製作に挑戦していたからです。

ボブスレーとは、独特な形状と機構を持つ専用のソリに乗って氷が張ったコースを滑走し、そのタイムを競う競技です。ソリには二人乗りと四人乗りがありますが、下町ボブスレーは二人乗りのソリです。皆さんの中には、1994年に上映された実話に基づいて、南国のジャマイカから冬季五輪に初参加したボブスレーチームの奮戦ぶりを描いたスポーツコメディーを思い出された方もいらっしゃるでしょう。

ボブスレーの歴史は古く、1924年の第1回冬季五輪から正式種目になっています。今や、世界のボブスレー開発競争は熾烈を極めています。ドイツのBMW、イタリアのフェラーリ、アメリカのNASA、イギリスの空軍が開発を進めています。我が日本も冬季五輪のボブスレー競技に日本人選手を送り出すようになってきましたが、何せソリ1台のコストが高く、これまではドイツから中古品を購入して改良しながら競技に臨んできました。これでは勝ち目はありません。そこで「安価で、日本人選手の要望を取り入れて、使い勝手の良いソリを作り、勝利を得よう」という合言葉のもと、大田区町工場特有の高度な金属加工技術と1日単位の短納期スピード対応で、試作1号機を完成させ、更に、日本人選手からの改良要望事項に対応し、2号機、3号機を製作しました。しかし日本人選手によるテスト走行で、検証する時間が取れないという理由で、残念ながら今回のソチ五輪には間に合わないという結果となりました。

でも、楽しみが少し先に延びたと考えましょう。4年後には、韓国の平昌（ピョンチャン）冬季五輪が開催されます。下町ボブスレーは、平昌（ピョンチャン）冬季五輪に向けて走り始めました。きっと大きな花が咲くでしょう。過去の歴史を考えれば、日本の町工場の技術力はまだまだ捨てたものではありません。世界の「ホンダ」の創業者、本田　宗一郎氏（浜松出身）も、最初は小さな自動車修理工場からスタートしました。彼の心の中には、常に「やらまいか」精神があったといいます。（「やらまいか」は浜松の方言で、「やってやろうじゃないか」の意味）　技術力は試行錯誤の連続によって、高めていくことができるのです。少し古くなりましたが、2009年に東大阪の町工場集団「東大阪宇宙開発協同組合」が、JAXAと大阪府立大学の協力を得て人工衛星「まいど1号」の打ち上げに成功しました。最近では、昨年、墨田区の町工場が芝浦工業大学・東京海洋大学などの協力を得て、安価で操作しやすい、水深8,000mの超深海探査ロボット「江戸っ子1号」の開発に成功しました。

◇

最後に、下町ボブスレーには強力な応援団がおります。1人は、安倍総理です。昨年2月の国会の施政方針演説で、実名を挙げて紹介されました。また1人は、松原大田区長です。当初から応援団長役です。私達も今後に期待しましょう。

資料写真提供：大田区産業振興協会　広報チーム

編　集　後　記

城南島タイムズは、読者の声の欄や掲示板コーナーをさらに充実させていきたいと思っています。皆様の積極的な活用をお願いいたします。

城南島連合会新聞委員会

城南島タイムズ

城南島連合会
発行元
新聞委員会
〒143-0002 東京都大田区城南島2-2-8
電話（03）5755-9390

2014年（平成26年）
2/10〈第39号〉

新年のご挨拶

城南島連合会 会長　杉崎　武春

新年あけましておめでとうございます。

国税庁の調査によると平成24年度黒字企業は276万社中27.4％でした。

大企業や上場企業が大幅に利益が増え景況感が大幅に改善したのに比べ、中小企業の景況感はやっとマイナスからプラスに転じた所で大企業と比べると半年から1年遅れています。

まずみなさんに伝えたい事は、現在使っていない東海道貨物支線の一部、JR田町駅と羽田空港間を整備しようという案がJR東日本から出されました。

2020年東京オリンピック、パラリンピックが決まって羽田空港からの輸送能力がモノレールだけでは足りないという理由からなのですが、是非とも実現させたいものです。この線が出来たら京浜島、昭和島、城南島の活性化はもちろん大田市場や東京貨物ターミナル、天王洲アイルで働く人達が格段に便利になります。

東京都、大田区、品川区などから作る東海道貨物支線貨客併用化整備検討協議会がすでに動き始めています。是非実現させましょう。

ご協力よろしくお願いします。

◇

新年ですので日本人が自身のもてる話をしましょう。

今、日本人が当り前と思って使っている道具や技術やシステムが世界では特別ですばらしいと絶賛されています。

遅れのない1分半間隔で運転されている山手線ですが、鉄道、地下鉄は今やイギリス、トルコで使われていて、ニューヨーク、タイでも受注しました。

ベトナムのハノイのそばの町では生活排水が流れ込んでいる川の水を食事や飲料水として使っていましたが、北九州の企業による上水道システムが整備され安全でキレイな水が飲めるようになりました。

又、ゴミとして廃棄されていて悪臭をはなっていたゴミ置場が日本の設備技術によって分別されリサイクルされて資源となっています。生ゴミも肥料と燃料になり、悪臭をはなつゴミ置場がなくなりました。

精米技術の無かったミャンマーではお米を安く買いたたかれていましたが、日本の精米機メーカーによりミャンマーのお米に合った精米機を作り、また技術を教えたことにより、お米を高く輸出することが出来るようになり、ミャンマーの農家にも利益が還元されるようになりました。

インドネシアやフランスでは日本のお弁当がブームとなっていて仕切られている弁当箱に自分が欲しい食材を何品かつめてもらうやり方が人気です。前菜からデザートまで完了させることができるのがお弁当です。フランスの学生もお弁当を持ってくる人が増え、それに伴い可愛いキャラクターのお弁当箱や伝統的なうるしの弁当箱も世界に輸出されています。

◇

このように日本の文化、技術、システムが世界に輸出され日本のすばらしさを世界中の人が認識し始めています。

これから2020年オリンピックまでの6年間、日本は間違いなく世界に飛躍します。

本日はお忙しい中、お集まり頂きありがとうございました。

城南島連合会の電話番号が新設されました

城南島連合会 03-5755-9390

城南島工業協同組合 03-3799-0401

ファックス番号03-3799-0451は変更はありません。連合会へのご連絡は新番号でお願いいたします。（城南島連合会　事務局　松本）

平成26年度城南島連合会新春賀詞交歓会開催

交流委員長　井上　忠道

2014年1月16日（木）、2014年度賀詞交歓会が大森東急イン・フォレストルームにて、53名の参加により、盛大に開催されました。

開催に先立ち、杉崎会長が「日本は世界に冠たる素晴らしいシステムを構築し、世界のリーダーとして誇れる国である」と力強く挨拶をされました。

続いて、来賓の東京都都議会議員　鈴木あきまさ様、大田区副区長　幸田昭一様の挨拶、そして少し遅れて衆議院議員　平将明様の挨拶で、「アベノミクスは若干の弊害があるにせよ順調に推移し、株価も8,000円から16,000円とうなぎ登りといってもよいほどであり、為替においても80円台から104円と景気の下支えを担っており、長かった景気低迷から漸く抜け出す兆しが見え始めている」と、新しい年に大いに期待を感じるお言葉をいただきました。

また、大田工業連合会の舟久保利明会長におかれましては、「大田の工業会の環境は、大変困難な時代を乗り越えて、今まさにプラスとマイナスがゼロ時点まできた。これからは忙しくなる。その備えを充分にしておきなさい」と、非常に明るい話題で閉められました。

そして、さわやか信金京浜島支店長の北川雅之様の乾杯の音頭で、懇親会のスタートを切りました。

◇

アトラクションは、正統派オールディーズバンド「グレイハウンズ」のライブステージ。1950～60年代のアメリカンポップス黄金期のころのヒット曲を映画アメリカン・グラフィティから抜け出したようなリーゼントやポニーテールのメンバーが歌います。

日本が高度成長期にあり、すべてが輝いていた1960年代。賀詞交歓会に参加した53名は、心の奥底で、あの時代のような好景気をアベノミクスに期待しながら、オールディーズのメロディーに酔いしれていました。

井上忠道副会長の中締めにて、散会。

平衆議院議員

鈴木都議会議員

幸田大田区副区長

舟久保会長

北川支店長

グレイハウンズによる生演奏

「城南島タイムズ」2014年2月10日　39号　発行　城南島連合会

城南島連合会活動報告

防災委員会報告

環境・防災委員長　大谷　武文

前号で城南島における防災市民組織として、城南島自衛防災委員会（仮称）を設立検討中であるとお知らせいたしましたが、昨年12月に委員会規約及び組織案を理事会で検討を頂き、一部の修正をもってご承認を頂きました。（前号でお示した案とほぼ同様）

大田区には、12月22日に届けまして正式な市民防災組織として承認を得ることができました。

今後は組織の充実と訓練、防災品の選定と備蓄管理となります。

大田区が臨海部被災生活者支援物資として配給する内容

◎城南島に対して

東京都の被害想定によると城南島の全焼、全倒壊事業所数は24事業所（従業員10名/1事業所）だそうです。この東京都の被害想定に沿って被災生活者支援物資の数量を決めているそうで、食料・水は被災者が1日3食で3日間過ごせる量で決定。

○食料…クラッカー（朝・昼の2食）240人×2食×3日＝1,440食
○食料…アルファ化米（夕1食）240人×1食×3日＝720食
○水（1人1日3ℓ）…240人×3ℓ×3日＝2,160ℓ
○毛布…240人×1枚＝240枚
○簡易トイレ（25人に1基）…25基（ペーパー含む）
○被災時に市民防災組織と自治体防災本部への連絡用PHS…1台
○消化機（初期消火用）…
　消火栓を利用できるもの（名称：スタンドパイプ）3台

◇

これらが大田区から支給されるものです。もちろんこれら以外で必要と思われる物がまだまだたくさんあります。何が本当に必要なのか十分に検討しまして、大田区から支給されます防災市民組織機材費用（13万円）を使用して揃えたいと思っています。

連合会としましては、大田区から支給される機材の設置場所、備蓄品の保管場所を決定する。スタンドパイプを使用して消火訓練を行う等が残っていますが、3月末頃までには終了させたいと思います。

しかし今回設立しました防災組織、支給される備蓄品、機材だけでは十分だとは言えません。城南島で事業を営む各企業は従業員が最低3日は安心して私施設に泊まれるような対策、備蓄を行っておくことが必要だと思います。

◇

◎「スロー地震」をご存じですか？

ある地震予測研究者の先生から、スロー地震について教わりました。

1月10日に国土地理院等から「房総沖でスロー地震が観測された」というニュースが流れたそうです。

千葉県の房総半島沖で、地下にあるプレートの境界がゆっくり滑る「スロー地震（スリップ）」とみられる現象を観測した。同様の現象は2011年10月以来で、観測史上最短の2年3ヶ月ぶりの発生。地震をもたらすプレートのひずみが小さくなった可能性がある一方、新たな巨大地震の前兆の恐れもあり、地理院は監視を続ける。

スロー地震（ゆっくり地震）というのは、1980年代に日本人研究者により存在が指摘された。それまでは地震は普段プレート境界（断層）が、がっちりと固着していて、100年とか、1000年に一回、大きく動いて地震を発生させるものだと考えられていた。それに対し、ゆっくり地震では、人が感じる地震波を生じないで、数日とか数ヶ月にわたってプレート境界（断層）がずれる現象です。このゆっくり地震には、次のような可能性があると考えられているそうです。

○最終的な大破壊（巨大地震）の前になると観測される。
○ゆっくり地震の発生間隔は最終的な大破壊（巨大地震）の前になると間隔が短くなる。

国土地理院発表の房総沖でのゆっくり地震の発生間隔
1996年　5月～2002年10月…77ヶ月
2002年10月～2007年　8月…59ヶ月
2007年　8月～2011年10月…50ヶ月
2011年10月～2014年　1月…27ヶ月

これだけみますと発生間隔が短くなっています。しかし2011年に東日本大震災が発生しましたので、間隔が短くなったからとは言え、すぐに大地震の発生にはつながらないそうです。

いずれにしても、常に災害に対しての備えを忘れないようにしましょう。

交通委員会報告

交通委員長　杉崎　武春

（新空港線）

別名：蒲蒲線と呼ばれていて、JR蒲田と京急蒲田800mを結び、田園調布から羽田まで直通で行けるようにするための事業である。

H24年度の整備調査報告によると、総事業費約1,080億円かかり、事業採算性においては現在想定している条件下では、一定の事業性が確認された。大田区新空港線「蒲蒲線」整備促進区民協議会を中心に、大田区をあげて実現させるべく活動している。

（首都高速中央環状線）

最後に残された大井JCT－大橋JCT（中央環状品川線）は2014年度末に開通する。この品川線は1号羽田線、2号目黒線と交差するが、工費、工期を節減するためジャンクションは整備されていない。

五反田出入口を左側分流にするため、この区間は右側通行となる予定である。つまり大橋JCT南側と大井JCT西側で内回り・外回りのトンネルがねじれているが、トンネル内であり対向車が見えないため問題はない。

（東海道貨物支線貨客併用化）

1ページ目の新年の挨拶参照

新聞委員会報告

新聞委員長　中澤　勇一郎

多分、今号の城南島タイムズが発刊されるのは、ロシア・ソチでの冬季オリンピックの開催中であろう。日本の選手の活躍を期待したいし、オリンピックを通じての数々の感動をしていることと思う。さて、昨年、2020年の東京オリンピックが決まり、これから数年にわたりワクワク感も高まり、街並みの変化などさまざまな取り組みがあることと思えます。

戦後育ちの私にとっては、東京オリンピックといえば50年前（1964年）しか知りませんが、幻となった1940年の東京オリンピックの時の話を、この正月に本で読みました。築地と月島を結ぶ両開きの跳ね橋である勝鬨橋（私の記憶には開いて船が通過する記憶はない）もこの年予定されていた東京での万国博覧会とオリンピックのシンボルとなるはずだったとある。オリンピック招致にあたり、最初のメインスタジアムの候補地は月島であった。現在の辰巳地区には競技場を配置し、その近隣には国際空港を建設する計画もあったそうである。メインスタジアムは強風の影響もあり、後には駒沢へとの変更がされたそうである。幻となったオリンピックから80年の歳月を経て、東京オリンピックが決まったことにより、東京のウォーターフロントも大きく変化するであろう。城南島周辺も世界各国から注目される良い環境づくりをしていきたいものである。

ホームページ委員会からのご報告

2010年より活動してきたホームページ委員会は、昨年の10月時点で城南島連合会のホームページの企業紹介18社を終了。その他3社と手続き進行中。いまのところ、新たな進展が見られないので一時、委員会は10月末日を持って活動を休止しております。

なお、企業紹介は引き続き募集しておりますので、連合会事務局へお問い合わせ下さい。

交流委員会報告

交流委員長　井上　忠道

2013年11月20日（水）、城南島秋季ゴルフコンペが美浦ゴルフ倶楽部で4組15名により開催されました。

優勝は高峻興業㈱後藤様でした。

秋季ゴルフコンペ優勝にあたって

高峻興業株式会社　後藤　進一

2013年11月20日城南島連合会15名の皆様と美浦カントリー倶楽部でのゴルフコンペに参加してきました。今回ご一緒させていただいた同伴者は、金子さん・西岡さん・松本さんで、皆さん温厚でマイペースだったのでとても楽しくラウンドする事ができました。

今回優勝出来た要因は、このコンペの2週間前にプロのトーナメントが開催され、そのテレビ放送を録画し何回も見ていたので、自分なりのコースマネージメントを実行でき、いつも以上のスコアーであがる事が出来ました。

今回も会長に言われたのですが、自分は交流委員会に入っていたのですが、ぜんぜん活動していなく、今年のピーチクリーンアップで受付デビューしました。

今後も、交流委員会とゴルフコンペには精力的に参加したいと思います。

今回ゴルフコンペに参加した皆様、お疲れ様でした。

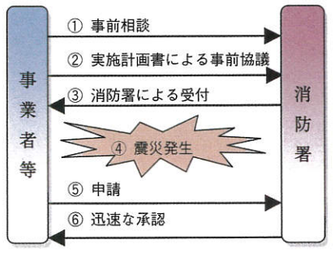
大森消防署からのお知らせ

大森消防署　伊藤・鈴木

震災時等における危険物の仮貯蔵・仮取扱い等の手続きが簡略化されました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災地では、危険物施設が大きな被害を受けたことにより、ドラム缶から手動ポンプを用いての給油や避難所等で一時的に暖房用の燃料を貯蔵するなど、平常とは異なる対応が必要となり、安全の確保が課題となりました。

そこで昨年、震災時等における危険物の仮貯蔵・仮取扱いの運用が円滑かつ適切に行われることを目的として、安全対策等のガイドラインが策定されました。これにより、関係事業者は、事前に震災時の業務内容を想定した実施計画書を作成し、消防署と事前に協議しておくことで、震災時等における危険物の仮貯蔵・仮取扱い等の事務手続きが簡略化できることとなりました。



※申請書類や申請方法等については、消防署へお問い合わせください。
問合せ先　大森消防署危険物係
電　　話　03－3766－0119

高輪ヂーゼル株式会社 大田区「優工場」「まちにやさしい部門」ダブル受賞

大田区「優工場」とは、人に優しい（働きがいのある労働環境）、まちに優しい（周辺環境との調和）、経営や技術に優れた工場を認定する制度です。その中で特に優秀な工場を部門別（総合、まちに優しい、ひとに優しい）に表彰します。

認定・表彰することで、大田区の工業に従事する人のやりがい、生きがいを引きだすとともに大田区工場の優秀性を内外にアピールし、大田区工業の振興を図ります。

城南島地区における新グランド整備

東京都港湾局

○施設概要
・所在地　大田区城南島2丁目25番（城南島サービスセンター隣地）
・施　設　多目的スポーツ施設

○整備スケジュール（予定）
・平成26年度　測量、土質調査、設計
・平成26～27年度
　整備工事⇒工事完了後、併用開始